

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048		
法人名	社会福祉法人 鷲園		
事業所名	グループホーム津山 北館		
所在地	岡山県津山市小田中138-4		
自己評価作成日	平成22年08月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390300048&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市南方町2丁目13-1		
訪問調査日	平成22年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

テラスのベンチに出れば鶴山八幡宮が見え、毎日、手を合わせてお祈りされる方もいらっしゃいます。定期的に交流会を持っている近くの幼稚園からは、子供達のはしゃぎ声も聞こえてきます。各自の居室で趣味の読書等をされたり、フロアで協力し合って洗濯物を干したりたたんだり家事をこなして、個人個人のライフスタイルを守りながら、家庭的な雰囲気を入居者同士が励まし合って、時にはのんびりと、そして生き活きと暮らせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

9人が平屋の別棟に住んでいる、というのがこの法人のグループホームの特長である。同一敷地に2棟建てであり、これが2ユニットとなって、管理者は1棟に一人配置されているので、管理者の人間性が発揮できる「独自性と協調性」が同居しているマネジメントをしている。しかし、2棟の職員一人ひとりの立場になると、笑顔一杯、元気溢れる生き活きとした態度で利用者に接して、皆仲良く見ただけでも楽しくなる。この影響は利用者との付き合いに浸透して、ゆったりと穏やかな生活ができています。昨年度の目標達成計画の実現によって、近所(町内会)、幼稚園と小学校との交流が実現でき、可愛い子供との時間を共有できるようになった。地域とホームの関係ができ、色々な面で話し合う機会を得た。利用者の持っている能力を生かして、それぞれに役割分担を持って、自分の役割を自覚できるようになった。これによって、このホームの生活によって人間回復ができています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は皆が見える場所に表示してあり、ミーティング等で再確認し合って業務に当たっている。	「家庭的で安心な生活」「健康維持・向上」「家族と利用者との信頼関係を受け良きパイプ役」この3つをこのホームの理念として掲げている。これらは職員間でも共有され、日々の支援に生かしているが、特に本人と家族の絆のパイプ役になっていることに気がついた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H21年度目標に掲げ、近隣小学校の地域交流活動に参加してチューリップの球根を通じた交流を持った。その後も近所の方から花の苗を頂いてお礼に入居者が作ったアクリルタワシをプレゼントしたり、近所の幼稚園と定期的に交流会を開いたりしている。	近くに幼稚園や小学校があり、幼・小の子供さんとの交流をしようと21年の目標に掲げたが、見事幼稚園や小学校の理解も得られ、子供さんがホームを訪問してくれるようになり、利用者は大変喜んで子供達と遊んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や入所問い合わせの方を中心に相談があれば応じます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での要望は出来る限り前向きに検討し、次回会議にて結果報告を行っている。	市の担当職員、地域代表、学識経験者と家族が参加し、2ヶ月に1回開催している。運営推進会議で話題になった事を職員ミーティングでもよく検討して、次回の会議に報告するようにしている。	運営推進会議も順調に進めているが、マンネリ化しないよう行事等組み合わせたり勉強会をして、近所の人を招く等して家族や地域の人との関わりを強めていったらどうでしょうか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ市の担当者へ出席して頂くようにしているのは勿論だが、感染症等に関する連絡をメールでもうらうなど協力体制を築いている。	2つのユニットで各々必要な事はその管理者が市の窓口と接触している。市からの通達等はメールアドレスを登録しておけば両ユニットに通達、通知されるようになっているので、連携はよく取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体抑制はもちろん行っていないが、向精神薬の服用についても主治医と連携をとりあって過剰摂取とならぬよう慎重に対応している。	身体拘束や虐待についてはホーム内でも研修をしたり、色々なホーム内での実例を取り上げながら職員間で話し合っどどのように具体的に対処するかよく話し合っている。特に拘束については安全な生活あつての事である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族との外出後等は身体や精神状態に注意を払い、虐待が起こった場合、すぐ発見できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している方がおられるので制度については理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に重要事項説明書にてご理解頂けるように説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置やご意見ご要望書の設置を行っている。利用者や家族が直接、職員へ要望等を気軽に言える関係にもなっている。	どちらのユニットに入所するか、対象者にはこの管理者がホームの事を説明し、本人や家族の理解を得るようにしている。そして本人や家族の希望や意向をしっかりと聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月のミーティングで話し合いを行い、取り組んでいる。	各ユニット毎に職員ミーティングをして、職員との意見交換を活発にしている。職員間は和気あいあいとしており、働きやすい、ものも言いやすい環境にある。両ユニット共同で行う行事等は両ユニットの職員同士が話し合って実行している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人幹部も毎月の職員ミーティングの場に出席し、意見交換をし合って就業環境の改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修だけでなく、ほぼ毎月1回はミーティングの際に内部での勉強会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、グループホームを考える会や資質向上セミナーを通じて勉強会に参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接や入所後のケアプラン作成の際には必ず本人との話し合いを行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族から詳しく話を伺っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接で入所が難しいと判断した方には、他施設を紹介したりしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	H21年度目標に掲げ、職員と一緒に一部の入所者も調理を行った。その後、レベル低下に伴い出来る事柄は減ってきたが、今も本人の能力に合わせた役割を持って頂いたり、その都度、家事等を職員と一緒にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いの中から家族が行う支援もケアプランに明記し、共に支える体制を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会があったり、家族と共に行きつけの店へ外出されたり出来ている。	「ホーム内の皆が仲が良いのが何よりも嬉しい事である」と言う声があった。こんな関係維持こそが利用者にとって最高の安心感であろうと思う。園児との交流や親戚の来訪等も積極的に受け入れて、馴染みしい思いをしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度化した利用者だけが孤立しないよう職員が間に入ることで支援している。また、互いに助け合う雰囲気が入居者にも浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先には看護添書にて情報提供を行い、相談等があれば応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議やケアカンファレンスにて、意向に添えるよう検討している。	利用者の思いや意向は出来るだけ具体的な言葉や内容を聞き取れば良いと思う。本人のつぶやきや表情から職員がどう捉えるか、察知することができるか、職員の感性の高さが必要となってくると考える。	利用者や職員の心の交わりをもっとしっかりできるように、一人に対し1日15～20分で良いから2人だけのコミュニケーションをするような試みを提案したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接での聞き取りや入所後のマッピングシートにて把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン実績表や介護経過への記入を通じて把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際にはモニタリングにて現行プランの見直しを行い、サービス担当者会議やケアカンファレンスを開いて関係者の意見等を聞いている。	毎月ユニット単位で家族に便りを送って意思疎通をしているので、家族も参加して介護計画作りをしている。介護計画を家族に見て承諾する用紙に「家族の意見」を書く様式になっており、ホームのケアと本人の状態の変化に対する思いを書いて伝えている人も居る。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートで情報共有を図りながら、必要に応じてカンファレンスを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	豊かな暮らしが出来るよう趣味活動の援助に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙芝居ボランティアや理美容ボランティアを活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診体制を整えている。	専門医の診察には、ホームでの日常の経過記録をまとめ医師に見てもらえるよう紹介状を付き添いの家族に託して、医師の診察に対して協力体制を持っている。又、医師、訪問看護師と家族の連携をホームでとっているため、家族も安心している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受けている。日々の体調変化等を伝え、相談援助してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時は看護添書にて情報提供を行い、随時、連絡を取り合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必ず契約時に説明し、重度化が予想される場合など随時、意向を確認している。	ホームの生活の限界を、嚥下困難で摂食不能や下肢筋力や骨折等の傷害で入所継続困難となる利用者の経緯を軸に家族と話し合っ、今後の生活の場を決めていくようにしている。母体は総合福祉施設で、全てに対応できるので本人も家族も安心である。しかし、利用者が最後までホームで生活出来る残存能力維持には日頃から努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が一通りのことは学んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回の避難訓練を行っている。近所の家や地元消防団の協力体制も整えている。	火災に対する消化、避難訓練は実施しているが、今後は近所の人にも訓練に参加してもらい、ホームの実態を知ってもらう事で、ホームに対する理解や関心を深めてもらえるよう対応が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が居室へ入る時には必ず本人の了承を得たり、トイレ誘導の際等も配慮を行っている。	転倒見守りのため、ドアを開いている居室もあるが、基本的にはプライバシーの保護と尊厳を守る態度は重視している。また、トイレや風呂場での人権尊重の対応や職員の気持はしっかりと話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	僅かな時間でも、その方とのコミュニケーションを図り、声に出来ない部分も引き出すように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課の流れはあるが、それに囚われず、各自が自分のペースで生活できるように配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を誉めてみたり、その方が心地よいと思える声掛けや個性を活かす工夫をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶汲みや配膳等その方の能力にあった家事手伝いを一緒にして頂いている。食事についても、各自に合った形態で提供出来ている。	利用者の心身の機能低下が進み、日常的に食事を一緒に作るということは段々出来なくなっている。しかし、このホームの一番は一汁三菜の献立で旬の物を味わいながら楽しく食事するという習慣は職員も利用者も持ち続けている。片付けやふきん掛け等は出来る人で行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックし、必要量が確保出来るよう努めている。また、水分が入りにくい方は甘いものにしてみたり、肥満気味の方は低カロリーの甘味料にしたり工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、行っている。舌ブラシ等、状態に合った器具を使用し、必要があれば職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表による排泄パターンの把握や排泄時の声掛けにより排泄の失敗を減らすように努めている。	排泄は全員トイレで行って、便器に座って用を達すと言うことは誰でも同じで、トイレ誘導をしっかりとしている。特に残尿、残便をすることなく、いつも清潔を保てるよう職員は努力している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1300cc以上の水分摂取を促し、牛乳やヨーグルトをとって頂く等、食べ物にも気を遣っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後からのみだが、ほとんどのの方が入浴を楽しみにされ毎日、入浴されている。	法人の方針として、毎日入浴をすると言うのが特長であり、毎日入浴と言う習慣が身につけてきた。しかし、利用者の体力、機能の衰退により入浴できなくなった人もいるが、清潔な身体にするよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室完備のため、各自が自分のペースで過ごせる環境にある。寝付きの悪い方の話し相手になったり、不安の多い方は共同スペースで過ごして頂いたり援助も行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分けや管理は契約している薬局が行っている。主治医へ状態変化があれば連絡し、対処できる体制を整えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	面接時や入所後に聞き取った情報から、飲み物やお風呂の温度など、一人一人に合った対応を行っている。また、行事での外出や趣味活動の援助も行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	H21年度目標に掲げ、テラスで自由に日光浴が楽しめるようベンチを購入した。敷地内の花壇や畑にも自由に出入りできる。また時々、家族等と外出したり、職員と買い物へ行ったりしている。	今年の酷暑はあまり外出も出来ていないが、1ヶ月に1回位は外食に出かけるよう計画している。ホームは高台にあり、付近の見晴らしは良く、前の庭に出て日向ぼっこをすることもできる。2ユニットの間の庭にはベンチがあり、そこに出て利用者同士で話も出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3万円以下のお金を預かり金として事務所にお預かりしており、希望があれば買い物時にお金をお渡しして預かり金の中から嗜好品を買ってもらったり出来る。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が手紙の代筆をしたり、書かれた手紙を投函したり、電話の取り次ぎを行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閑静な場所に立地しているので落ち着いて暮らせる。季節の花を飾ったりして季節感を出す工夫を行っている。	午前中の1時間位はリビングルームのソファに集まり、レクリエーションや体操をして体をほぐす、ゲームやカラオケなどをして脳の体操をする。この時間だけ利用者全員が集まって一緒に行動をするが、他は利用者が自由にリビングルームで過ごしている。	2つのユニットの交わりを行事だけでなく、日常的に利用者がもっと一緒に出来るような雰囲気作りはできないだろうか。全体でなくても、個人的に行き交う人も活発にする結び付きもしてもらいたい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者各自がお互いの部屋を訪問したり、ソファーや食堂で団欒されたりして交流されている。食堂のスペースが広いので、自分の席で独り居ることも出来る。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具等は各自、使い慣れた物を持参されている。	自由な時間は居室で過ごす人も居る。自分の好きな編み物をしたり、花を生けたり、塗り絵等をして自分の生活を楽しんでいる人も居る。テレビを見たり、本や雑誌・新聞を読む人も居て、まさに自分の家と言う感じである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所や浴室は解りやすく表示されている。		